

## 英国のボランティア団体におけるソーシャルワーク実践に関する研究

研究代表者：三上邦彦（岩手県立大学社会福祉学部・教授）研究参加者：藤野好美（岩手県立大学社会福祉学部・准教授）、岩渕由美（岩手県立大学社会福祉学部・助教）、山崎陽史（岩手県立大学社会福祉学部・助教）、飛田圭吾（みちのくみどり学園・児童指導員）、高松誠（盛岡白百合学園高等学校・教諭）

### <要旨>

本研究では、英国の児童福祉民間団体のバナードーズを対象にして、プロジェクト研究メンバーによるバナードーズ本部への訪問調査、Barnardo's Child Sexual Exploitation, Missing and Trafficked Service 部門スタッフからの聞き取り調査、Barnardo's メンバー等との事業に関する意見交換を通して、当該団体の性的搾取にかかる事業の目的・方法・内容について調査し、事業全体の把握につとめた、その成果として『平成28年度英国のボランティア団体におけるソーシャルワーク実践に関する研究報告書』を作成した。

### 1. 研究の概要

英国では、ボランティア団体における社会福祉実践が国策の受身ではなく、より積極的に戦略的に実践活動していく事で、社会の底辺に潜む深刻なニーズをキャッチし、支援が必要な人々へ支援がつながっていく循環を作っている。日本の場合、社会福祉の実施主体である施設、機関、NPO 団体などが本当に必要なニーズを主体的に掘り起こして、施策につなげていることが少ない。そのため、この構造を変革しない限り、ソーシャルワークの専門性が社会に認知されにくいのではないかと考える。ゆえに、先駆的な取り組みをしている英国のボランティア団体の取り組みについて、歴史的にもシステムのにも理解することで日本の社会福祉実践構造の課題や変革への手がかりを求めていく事ができるのではないかと考える。そこで英国におけるボランティア団体で最大の活動をしている Barnardo's を対象にしなが、今回は事業の中で最も重要な取り組みとしている、子どもの性的搾取にかかる実践について調査し、事業全体を把握することを目的とする。

### 2. 研究の内容

- ・学部プロジェクトメンバーによる Barnardo's への訪問調査
- ・Barnardo's Child Sexual Exploitation, Missing and Trafficked Service 部門スタッフからの聞き取り調査
- ・Barnardo's メンバー等との事業に関する意見交換

### 3. これまで得られた研究の成果

第一に、Barnardo's の実践は、戦略部門を中心に今日の英国における子ども家庭福祉問題を調査分析し、問題を抱えている子どもたちに対して、戦略計画を立て、必要に応じて積極的に社会福祉実践を展開していくという点に特徴がある。今回は性的搾取にかかる活動に焦点をあて、視察調査を実施したが、公的な英国政府の介

入等に関して、バナードーズから、政府や議員に対して働きかけを行っている。またその際に主務大臣にこの性的搾取に関して何らかの対応をするようにとの要請をしている。政府の方でも行動計画を策定して、いろいろな省庁や子どもに関する保健衛生関係の当局、また、刑法上の手当てが必要であるとなれば、法的措置をとってもらえるように働きかけている。

第二に、バナードーズの現在行っている事業の中で、子どもの性的搾取、人身売買、行方不明（Child Sexual Exploitation, Missing and Trafficked Service）実践の視察を行った。この事業はバナードーズが現在実施している事業の中で、最も重要な取り組みとなっていた。民間の社会福祉機関の取り組みとして地域における潜在的かつ深刻な子どもの問題に対して、アウトリーチの方法を駆使して、最前線でバナードーズが取り組んでおり、子どもの問題に対して、1対1の支援し、子ども自身に考えさせることで、子どもたち自身の人権や自立意識を高めていくかわりを重要視している点が理解できた。また、性的搾取への取り組みだけではなく、移民、違法労働、犯罪、虐待、人権侵害など複雑で多くの問題がコンビネーションされているのが特徴であり、自治体との契約、警察やソーシャルワーカー、弁護士、移民の場合には法務局とも連携をしながらこの問題に取り組んでいることが理解できた。

### 4. 今後の具体的な展開

バナードーズの子どもの性的搾取に関する取り組みは、目標を設定し、志を持たせること、変化させることを望むこと、若者に寄り添いながら支援している。プライマリーな支援であるが、社会資源との接点として、バナードーズが果している役割は重要である。今後もバナードーズとの社会福祉の実践にかかる研究等について国際的な交流を継続していきたいと考える。

